

民具通信



西中国山地民具を守る会

民具通信

第1号 2007年8月8日

浜田市金城民俗資料館内
西中国山地民具を守る会

残暑お見舞い申し上げます。さて、民具を守る会は、今年の秋に、足掛け40年を迎えることとなりました。定期総会でもご承認をいただいている各種事業の推進について、役員会において、下記のとおり、事業推進の方向が決定しましたのでお知らせいたします。

記

1. 実践民俗学提唱40年記念誌『民具を用いた労働慣行』の発刊について

発行日＝11月1日

体裁等＝A4判・約212ページ

発行部数＝500部

印刷所＝KKぎょうせい中国支社

予定価格＝3,000円（税込み）

予約募集＝10月20日までに予約された方には、2,700円（1割引）とする。

予約申込書を同封しますので予約を沢山とっていただきたいと存じます。

2. 特別企画展の開催について

『金城の古代・中世展』

会期＝9月1日～12月31日

◎ 浜田市金城歴史民俗資料館二階展示室

3. 文化財講演会&出版パーティー

【文化講演会】

期日＝11月18日（日）10:00～12:00

講師＝井上寛司氏（島根大学名誉教授・大阪工業大学名誉教授）

演題＝「石見の中世における神社について」

【出版パーティー】

会発足40周年記念に併せて出版パーティーを行ないます。

日時＝11月17日（土）18:30～21:00

会場＝川根荘

4. 笠松峠の畳石路の草刈清掃について

ツーディウオーク開催前に、畳石を清掃したいと考えております。

実施期日＝9月30日（日）午前8時～ 詳細は後日葉書で連絡します。

5. 資料館の学芸員(非常勤)の選任について

次の3名の方が学芸員として協力・支援をいただくことになりました。

浜田市金城歴史民俗資料館

① 岡崎秀紀さん（歴史産業遺産）

② 高本康子さん（近代史・比較文化論）

浜田市金城民俗資料館

③ 北村春香さん（民俗・和紙）

以上のとおり当面の計画をお知らせいたしますので、各自の日程調整をお願いします。

民具通信

第2号 2007年10月10日

浜田市金城民俗資料館内
西中国山地民具を守る会

9月30日に実施した、「笠松峠の畳石路と才の埕」の草刈り作業並びに資料館の清掃に15名のご参加をいただきました。文化財保護活動の一環として毎年行なっている館外活動です。作業終了後は、有志6名で波佐一本松城への登山道の草刈り清掃を行いました。

コースは、大歳神社の上側の矢谷を登り、水はね施設、貯水池、主郭、9本の堅畝式阻塞、空堀、武者走りを経て大歳神社の横に下りてきました。今月17日に、波佐小学校5～6年生が城郭学習でこのコースを探索します。



『民具を用いた労働慣行』がいよいよ11月1日に発刊の運びとなりました。これに伴い出版記念パーティを予告しておりましたとおり、11月17日(土)午後6時30分から川根荘で実施します。11月に入れば、出欠の確認を取りたいと考えていますので、是非とも日程を確保しておいて下さい。

第33回文化財講演会を11月18日(日)午前10時から波佐公民館(ときわ会館)で実施します。講師は、井上寛司氏(島根大学名誉教授)で演題は、「石見の中世～宮制と地域支配権力」です。この講座は、一般公開講座として実施しますのでPR方を宜しく願います。

金城の古代・中世展

会期：12月28日まで

浜田市金城歴史民俗資料館

民具通信

第3号 2007年 11月 20日

浜田市金城民俗資料館内
西中国山地民具を守る会

民具を守る会結成40年を記念して発刊した『民具を用いた労働慣行』の出版記念祝賀会が11月17日(土)午後6時30分から川根荘で浜田市教育長山田洋夫氏はじめ多数の来賓をお迎えして盛大に実施しました。



第33回文化講演会を11月18日(日)午前10時から波佐公民館(ときわ会館)で井上寛司氏(島根大学名誉教授)をお迎えして「中世の石見と神社」と題して聴講いたしました。



金城の古代・中世展

会期：12月28日まで

浜田市金城歴史民俗資料館

民具通信

第4号 2008年4月15日

浜田市金城民俗資料館内
西中国山地民具を守る会

能海寛生誕140年記念

チベット巡礼探検家 「能海寛展」

会期：4月15日（火）～8月31日（日）

浜田市金城歴史民俗資料館において、4月15日に標記の特別展がスタートしました。民具を守る会員の皆様の資料館当番に当られるお方は、下記の特別展の特長などをよく理解して来館者に説明ガイドしてあげてください。下の写真は、今回の展示のものです。

記

【主な展示品】

将来品（経典・仏像）、石峰文庫図書、経典翻訳原本、「石見湯高嶋記」、「口代」（遺書）、「東北紀行」、「伊豆七島紀行」、寛が訪れて入手した資料（富士山、稲田の郷、身延山）、寛が愛用したチベット文典・英文図書類、詠歌集、哲学館講義録、愛用の地図類、印章類、写真類、恩師・交友関係、未発表書簡、チベット探検家10名の略歴譜などを展示。

【能海寛に関連する行事など】

「新緑探訪・能海寛歌碑巡りウォーク」日時：5月3日（土） 会場：ときわ会館

中国大陸12,000Kmを踏破した健脚のふるさとを新緑探訪と歌碑巡りウォークラリーが5月3日（土）に実施されます。民具を守る会も昨年同様に協賛団体となっております。ウォークは、午前9時ときわ会館スタート、7Kmコースです。途中2箇所給水所を設け、ゴールでブタ汁のサービスがあります。参加費は、300円（小学生以下無料）。お誘い合わせてご参加ください。



能海寛歴史資料の展示模様

吉備路へ民俗研修旅行

～能海寛資料貸出展示を見学～

本年度の民俗研修旅行は、去る7月20日に参加者9名で実施しました。7時、ときわ会館を出発して、一路福山市へ向かい、広島県立歴史博物館で開催中の企画展「広島発 はるかなるシルクロード」や「草戸千軒」の常設展を見学しました。

「広島発 はるかなるシルクロード」は、金城歴史民俗資料館から能海寛資料が27点貸出展示（下記写真）されています。会期は、8月24日まで。

午後からは、吉備路の研修で、備中国分寺、岡山県立吉備路郷土館、造山古墳、吉備津彦神社、吉備津神社、岡山県立古代吉備文化センターなどを見学しました。



広島県立歴史博物館の能海寛の展示コーナー、玄関での記念撮影（2008.7.20）

第34回文化講演会の開催について

既に、昨年から周知いたしている講演会が近づいて参りました。この講演会は、「吉備地方のたたら製鉄」と題して講演されますが、内容的には、石見のたたら製鉄を勉強する上で、古代からの吉備地方との関連性を学ぶことによって、大いに参考になるものと考えます。お誘い合わせてご出席くださいませ。

記

日時 平成21年1月18日(日) 午前10時～正午

会場 金城町波佐 ときわ会館

講師 岡山県教育委員会 文化財課総括副参事 光永真一氏

資料館の消防・防災訓練の実施について

文化財防火デーに伴う文化財の防災意識の高揚と実地訓練による緊急時に迅速に対処できるよう、下記の日程で浜田消防署美又出張所の指導の下に防火訓練を実施しますので、会員多数のご出席をお願いします。引き続き昨年制定した、「危機管理体制組織対応消防計画」の周知の為のミーティングを行います。

記

日時 平成21年1月31日(土) 午後2時から

会場 ときわ会館

- ① 防火訓練と初期対応について
- ② 消防計画のミーティング

当館の北村学芸員の活動状況

本館の非常勤学芸員の北村春香氏は、館外活動として、昨年11月30日、和紙文化研究会主催の第16回和紙文化講演会で、「日常の紙布、非日常の紙布」。12月6日、第33回日本民具学会大会研究発表で「日常の紙布—農山村で作られた紙の着物—」と、2回にわたり、紙布に関する研究を発表され、金城民俗資料館のPR活動にも力を注がれています。

浜田市文化財指定記念

千ベツ巡礼探検家

『能海 寛展』

会期:2009年3月31日まで 好評開催中!

会場:浜田市金城歴史民俗資料館

※ 歴史資料357点を一挙公開中

文化財防火デーにちなみ消防・防火訓練を実施

1月23日（土）午後2時から

会 場 浜田市金城民俗資料館・金城歴史民俗資料館
訓練内容 通報訓練・誘導訓練・消火訓練・救命救急（AEDの使用法など）
訓練対象 金城資料館登録の自衛消防隊員全員
指 導 浜田市消防署美又出張所職員

実践民俗学第10弾 「古代たたら製鉄法」に挑戦

実践民俗学を提唱して、これまでに実践してきた①旧製法による紙漉きの再現。②楮カマドの移設復元。③囲炉裏の間の移設復元。④農具を用いた労働慣行。⑤麻の栽培と麻蒸し作業。⑥がしん俵の稗栽培実験。⑦二丁フイゴたたらへの復元。⑧早稲つき再現記録作成。⑨古老による「とろへい」の復元、記録作成。今回は、第10回目の挑戦で、昨年12月16日に波佐小学校において、フイゴたたらによる「たたら製鉄」に挑戦して見事に成功した。今回のたたら製鉄再現は、波佐小学校のふるさと学習とタイアップして11月にたたらの炉を構築し、一ヶ月間乾燥させて、12月15日に炉の空焚きを行い、炉壁を完全に乾燥させてから、翌16日、早朝5時から火入れを行い、児童、先生、会員が交代でフイゴ吹きを行い、炉に新鮮な空気を送り込み、参加者全員が砂鉄の投入も体験した。10時頃には茜色の炎が山吹色に変化した。砂鉄を少しずつ投入すると瞬時に真っ赤に熔け30Kgの砂鉄は正午には無くなった。使用した木炭は砂鉄の倍の60Kgを使用した。大方の予想では、夜10時頃まではかかるだろうと考えていたが7時間でほぼ終了した。地域の人たちも沢山見学に来られた。5時まで火を見張って翌日の銑鉄の出来具合に夢を馳せた。

翌朝、児童たちは目をキラキラさせながら銑鉄を炉から取り出し歓声を挙げた。12Kgの銑鉄を採取した。今回の砂鉄は業者より購入したものであるが、昨年10月にミニ鉄穴流し作業により児童たちが採取した砂鉄も今回使用した。

今後は、この銑鉄を市内の鍛冶屋さんで記念物となる品物に加工していただくことになる。そして、一部は、3月からの企画展「石見のたたら製鉄」で公開展示することとなりました。



実践民俗学第10弾 「古代たたら製鉄法」に挑戦

日本で最初に「実践民俗学」を提唱して、これまでの40年間に実践してきた活動は次のとおりである。

- ① 旧製法による「紙漉き」の再現、記録作成。(1971.12－1972.2)
- ② 「楮カマド」の移設復元展示。(1972.12)
- ③ 「囲炉裏の間」の移設復元展示。(1973.3－4)
- ④ 「農具を用いた労働慣行」記録作成。(1975.5－11)
- ⑤ 「がしん俵」の稗栽培実験。(1976.5)
- ⑥ 「麻の栽培」と「麻蒸し」記録作成。(1977.5－8)
- ⑦ 「二丁フイゴたたら」の復元展示。(1978.10)
- ⑧ 早稲つき再現記録作成。(1981.10)
- ⑨ 古老による「トロヘイ」の復元、記録作成。(1988.2)
- ⑩ 古代「たたら製鉄」の再現実験。(2009.12)、(2010.3)

これらの事業は、聞き取り調査、文献資料に基づいて、忠実に再現して、実践による、民俗学を提唱する基本理念で、行っておるものです。



民具通信

第9号 2010年7月15日

浜田市金城民俗資料館内
西中国山地民具を守る会

妻木晩田遺跡／和鋼記念館／とっとり花回廊を見学／2010年7月11日

当日は、雨天で荒れ模様であったが、予定通り、3箇所の見学研修を終えた。妻木晩田遺跡では、ボランティアガイドさんの案内により約2時間広大な遺跡を見学しました。午後からは、とっとり花回廊に立ち寄り、帰路で、安来市の和鋼記念館を見学、俵国一博士のたたら研究の業績を研修して今年度の文化財研修を終了しました。



民具通信

第10号 2011年2月1日

浜田市金城民俗資料館内
西中国山地民具を守る会

生誕140年記念

「島村抱月パネル展」を開催中！

文豪「島村抱月」の業績をパネル展示して、抱月の生涯を顕彰する企画展を8月31日までの8か月間にわたり開催します。この企画展では、抱月の数少ない史料を補うため60点のパネルを作成して抱月の幼年期、少年期、青年期、壮年期の写真資料を豊富に使用して分かりやすい解説で展示しております。

第36回文化講演会

「島村抱月パネル展」に併せて文化講演会を次の通り開催します。

日時 平成23年3月13日（日）

午後1時から（2時間）

会場 金城町波佐 ときわ会館大集会室

演題 「島村抱月の仕事」～芸術座の活動～

講師 岩町 功氏（浜田市教育文化財団副理事長）

入場料 無料



文化財防火デーにちなみ消防・防火訓練を実施

去る1月22日（土）午前10時から正午まで、浜田市金城民俗資料館・金城歴史民俗資料館において浜田市消防署美又出張所職員指導の下に金城資料館登録の自衛消防隊員の通報訓練・火災避難訓練・救命救急（AEDの使用法など）実施しました。



第36回文化講演会「島村抱月の仕事」

企画展『島村抱月パネル展』に合わせて開催した文化講演会は、3月13日（日）ときわ会館において抱月研究家の岩町功氏を迎えて開催された。講演会では、『島村抱月の仕事』～芸術座の活動～と題して、抱月の生立ちから芸術座までの活動をエピソードを交えて長年の研究成果をつぶさに発表いただいた。



43年間の活動が評価される

昭和43年に結成した西中国山地民具を守る会は、実践民俗学を提唱して43年間の文化財保護活動が評価されて、この程、松江市サンラポーむらくもに於いて、島根県文化財愛護協会より表彰状を受賞いたしました。副賞として、金城資料館に22インチの液晶テレビを設置いたしました。この度の受賞を記念して、「実践民俗学提唱43年の歩み」を発刊しました。下の写真左から表彰状、本会活動43年の歩み



たたら製鉄講演会（パートⅢ）の開催報告

3月11日に開催した第37回文化講演会は、石見銀山資料館長仲野義文氏をお迎えして、『近世石見地方のたたら経営とその特質について』と題して、開催しました。来賓に、浜田市教育部長今田泰氏、浜田市議会議員平石誠氏。祝詞を島根県議会議員大屋俊弘氏よりいただきました。遠くは広島市からも、たたら製鉄に関心のあるお方が多数参加いただき熱心に聴講され、多くの質問も出され、たたら製鉄に関心の深さを示されました。講演では、文献史料をベースに石見銀山と江川流域のたたら経営の関係、鉄山株の売買、銑鉄の流通先、出雲と石見の生産量の比較などを通して石見のたたら経営の実態解明を深める必要を力説されました。

参会されたお方からは、石見地方の「たたらネットワーク」を構築に尽力してほしいなどの意見も提案されました。講演の後、常設展「石見のたたら製鉄と流通」を見学していただきました。（写真は、当日の講演会場の模様）



2012年度の活動方針決まる

4月8日に開催された定期総会で今年度の活動方針が下記のとおり承認されました。向こう一年間、宜しくお願いします。

記

- ◎ 今年度は、企画展を開催せず常設展の展示パネルを新規作成して、グレードアップを目指す。
- ◎ 来観者のニーズに沿って館内のガイドを充実していくためにガイド養成講座を開催する。
- ◎ 特に、市内各小学校3～4年生を中心に社会科学習、ふるさと教育に関する課外学習の施設として、見学学習の受入れに力を入れていく。
- ◎ 展示スポットライトを逐次LEDに更新していく。

【文化講演会】

- ◎ 第38回文化講演会は、平成25年3月上旬に開催する。

【広報関係】

- ◎ 部外啓発用として「かなぎ民俗」の発行(3回程度)。
- ◎ 部内周知用として「民具通信」の発行(2回程度)。
- ◎ 文化財研修旅行(古事記1300年「神話博しまね」・10月実施予定)

【文化財保護事業】

- ◎ 「能海寛関係資料」を島根県指定文化財に推挙できるよう調査表を作成する。
- ◎ 「たたら関係資料」を市指定文化財に推挙できるように目録・台帳の資料整備を図る。
- ◎ 「市指定史跡『笠松峠の畳石路』」の草刈作業(9月下旬実施予定)。
- ◎ 文化財防火デー／防火訓練(25年1月下旬予定)

【資料整備】

- ◎ 国・県指定「民具調査表」のデジタル化作業を行う。※40年を経過して台帳が痛んできたため。
- ◎ 歴史館収蔵の古文書の修復作業を行う。※複数年かけて実施する。

【出前講座】

- ◎ 資料館での民具学習とパワーポイントによる映像学習、出前講座も積極的に推進する。
- ◎ 新年度は、各小学校へ「課外授業」の受入れの周知文書の送付PR活動をする。

【学芸員】

- ◎ 非常勤学芸員の任命予定(2012. 4. 1～2017. 3. 31)

浜田市金城民俗資料館 北村春香氏(民俗学)

浜田市金城歴史民俗資料館 高本康子氏(比較文化論)・岡崎秀紀氏(近代産業遺産)

文化財の保護事業

9月30日(日)に浜田市指定文化財(史跡)「笠松峠の畳石路」の草刈り清掃作業班12名と資料館内外の清掃作業班5名に分かれて文化財の保護事業としての清掃作業を行いました。

笠松峠は、頂上から9名、下の堰堤から3名で刈り進んで、中央の立石付近で出会い正午に終了しました。今年は、枯れ枝などが沢山落下しており、その後片付けで時間を費やしました。



文化財研修旅行の実施 10月4日(水)

今回は、古事記1300年を記念して開催されている「神話博しまね」を訪ねる研修を波佐公民館との連携で研修旅行を実施しました。総勢25名の内、民具を守る会から9名の参加をいただきました。早朝7時ときわ会館を出発し、大社町の神話博会場に9時半に到着。映像館でシアター視聴後、神話博会場を自由見学、古代出雲歴史博物館を見学。昼食後、宍道湖自然観館ゴビウスを見学。島根ワイナリー、道の駅きららに立寄り、午後6時過ぎ、ときわ会館着というスケジュールで研修旅行を無事終了しました。



文化財防火デーに伴う自衛消防隊防火訓練実施

例年のおり文化財防火デーに伴う消防防火訓練を1月26日(土)に実施しました。浜田消防署美又出張所(田中、拝上の両氏)から避難・誘導・消火活動についてご指導をいただき、自衛消防隊員11名の参加の下、避難・誘導訓練、消火器を使用して参加者全員が消火模擬訓練を実施しました。

訓練終了後、ときわ会館において、パワーポイントによる「実践民俗学提唱45年」の研修を実施し45年間の活動を振り返り、今年の秋に資料館開館40周年イベントの取組みについて協議した。



第38回文化講演会

3月9日(土)

文化講演会を下記の日程で開催いたします。多くの皆様のご参加を呼び掛けております。

記

日時 平成25年3月9日(土) 午前10時～正午

会場 金城町波佐 ときわ会館大集会室

演題 「文化財保護活動に携って」～埋蔵文化財と石見神楽～

講師 :渡辺友千代氏 (匹見上公民館長)

主催者 西中国山地民具を守る会

入場料 無料

民俗資料館開館40周年記念イベントを開催

今年は、民具を守る会結成45周年、金城民俗資料館開館40周年、金城歴史民俗資料館開館35周年の記念すべき節目の年となります。これを記念して、11月2日～11月4日までの3日間、入館料無料扱いとして、市民感謝デーのイベントを開催することが4月6日開催の定期総会において承認されました。

11月4日(月)には、記念講演を開催する運びとなり、旅の文化研究所所長の神崎宣武氏を講師にお招きして記念講演を開催いたします。



神崎宣武氏

神崎宣武 (かんざき のりたけ) プロフィール

神崎研究室室長・旅の文化研究所所長。1944年、岡山県生まれ。武蔵野美大在学中より宮本常一に師事。以降、国内外の民俗調査・研究に従事。陶磁器の技術伝播の調査と民具の収集に始まり、食文化に展開。旅への関心は、フィールドワークの体験と旅先で出会った行商の人たちとのつきあいから。郷里の吉備高原では神主でもある。旅の文化研究所所長、日本民俗学会会員、文化審議会委員、東京農大客員教授、五十鈴塾塾長など。

主な著書

吉備高原の神と人(中央公論社)、日本人は何を食べてきたか(大月書店)、しきたりの日本史(角川学芸出版)、酒の日本文化(角川学芸出版)、『湿気』の日本文化(日経)、おみやげ-贈答と旅の日本文化(青弓社)、ちちんぷいぷい-『まじない』の民俗(小学館)、三三九度-日本的契約の民俗誌(岩波書店)、江戸の旅文化(岩波書店)。

関連 HP

[旅の文化研究所](#)、[日本民俗学会](#)、[五十鈴塾](#)。

第39回文化講演会

演題「峠を越えた魚」～日本食文化の旅～

講師：神崎宣武氏(旅の文化研究所所長)

日時 平成25年11月4日(月)／午後2時～4時

会場 浜田市金城町波佐／ときわ会館

主催者 西中国山地民具を守る会 入場料 無料

文化財保護事業

『笠松峠の畳石路』 草刈清掃

7月21日(日)9時から昼過ぎまで浜田市指定文化財の「笠松峠の畳石路」全長1,800mの内1,200mの区間の草刈り清掃に会員10名の参加の下、運動靴でウォーキングが出来るよう清掃した。水の横側、涼みの松、立石(記念碑)もきれいに刈り出された。涼みの松は津和野藩主が領内巡見の折に小休止する場所として往時の松の大木が現存している。当時は、芝生が植生され、大芝と称され三段の広場となっている。



支障をきたす歩道壁

平成22年度に設置された歩道工事により写真のような障害壁が来観者の資料館確認に支障を来していることが来観者から指摘を受けている。22年度から入館者が減少したことからデータが示している。壁面に看板設置を道路管理者へ働きかけて見たいと考えている昨今です。



第39回文化講演会

演題「峠を越えた魚」～日本食文化の旅～

講師：神崎宣武氏(旅の文化研究所所長)

日時 平成25年11月4日(月)／午後2時～4時

会場 浜田市金城町波佐／ときわ会館

主催者 西中国山地民具を守る会 入場料 無料

「峠を越えた魚」～日本食文化の旅～

11月4日(月)に、ときわ会館において、旅の文化研究所長・神崎宣武氏を迎えて文化講演会を開催しました。神崎先生は唐鐘港から峠を越えて広島県の北へ行商の人たちの民俗誌『峠を越えた魚』を出版されております。

講演会では、全国の食文化を訪ねてハレ(祝祭日)とケ(日常)の日本人本来の日本食の原点である食生活を通して一汁一菜(ケの食事)、一汁三菜(ハレの食事)、三三九度(契約ごと)などの言葉のもつ本来の姿を会場の聴者とやり取りしながら楽しい講演会で、2時間があっという間に過ぎてしまいました。今回の講演会には、岡本昭二県議、原田義則市議会議長、平石誠市議、柳楽真智子市議、岡本利道自治区長、岡本好昭文化振興課長、岡崎秀紀能海寛研究会長を初め広島市内、松江市、益田市などから多数のご参加をいただき、大屋俊弘県議、須山隆県議より祝詞をいただいた。



民具を守る会結成45周年を祝う

結成45周年を祝い、きんたの里において記念パーティーを行い、冒頭に会発足以来、尽力された二代目会長の上山均氏に感謝状を贈呈しました。



奥出雲民俗研修旅行を実施

11月17日(日)に奥出雲民俗研修旅行に7名の参加の下、奥出雲の鉄の雲南市吉田町の鉄の未来科学館、鉄の歴史村博物館、菅谷たたら。横田町の絲原記念館、可部屋集成館などを見学しました。今回の研修は、出雲地方のたたら製鉄の歴史・たたら関係資料などを見学し石見地方のたたら研究に活かしていきたいと思う一日でした。特に、菅谷たたらは現在解体中で、修復前の全体の規模が一目瞭然に見ることができとても参考となりました。

文化財防火デーに伴う消防防火訓練の実施

1月26日の「文化財防火デー」に合わせて金城資料館自衛消防隊の自主訓練を次の通り行います。会員多数の参加をお願いします。

日時 平成26年1月26日(日)午前10時から

会場 金城民俗資料館 浜田消防署美又出張所からの講習・指導

研修会 午前11時からときわ会館



「県民いきいき活動奨励賞」受賞

2月10日、島根県庁において、「県民いきいき活動奨励賞」を西中国山地民具を守る会が溝口島根県知事より授与されました。評価された点は、『①長期にわたり貴重な文化財を収集し、保存する活動を展開。②文化財の保護・啓発には大人から子どもまで参加し、地域全体で伝統を守っている。③小学校のふるさと学習を行うなど発展的な活動を展開している。』です。

今回、受賞した団体は、NPO・ボランティア部門で6団体、企業部門で2団体、学生部門で4団体、浜田市から5団体が受賞しました。表彰式の後、溝口知事と記念撮影、昼食を交えて知事との懇談会が行われ、知事からの感想・コメント・今後の活動に対するエールも沢山いただきました。



受賞12団体

県民いきいき活動奨励賞受賞報告会

2月21日、川根家にて、県民いきいき活動奨励賞受賞報告会を開催しました。報告会には、原田市議会議長、柳楽市議、岡本自治区長にご出席いただき、受賞の報告、披露を行なった。45年間の活動経過に一同感慨深く当時の記憶を互いに思い起こした。これからの「地域まるごとミュージアム」協議会設立に向けて「学べる博物館づくり」に他団体とタイアップして推進することとした。



石峰&抱月のふるさと金城町

ミュージアム

「地域まるごと博物館」構想について

既に存在している地域の資源を活用して、地域全体を博物館と見立てネットワークする。自然・歴史・文化・景観・まつりを包括する地域資源を活かし地域活性化を図り、エコ・ツーリズムの推進で都市交流・滞在型の観光・体験学習ができるカルチャー・ミュージアム(学べる博物館)を目指す。

【まるごとミュージアムの範囲】

波佐・長田・小国地域の景観、自然(大佐山・大潰山・周布川・笠松峠・巨樹・巨木・カシ林)、歴史(山岳城郭・たたら製鉄)、資料館(たたら・偉人・埋蔵文化財・民俗資料)、文化(夏期チベットセミナー・文化講演会)、まつり(秋祭り・ほたる祭り)、農作業体験(収穫体験)、民泊(滞在型観光受入)、スポーツ(スキー・ウォーキング・ハイキング・軽登山)、カルチャー(考古学・民俗学・冶金学)、都市交流(小国春をくう会)

【観光案内モデルコース】

- | | |
|----------------------|----------------------|
| ① 能海寛歌碑めぐりコースを訪ねる旅 | ② 島村抱月文学散歩コースを訪ねる旅 |
| ③ 石畳路と山岳城郭を訪ねる旅 | ④ たたら関係資料とたたら遺跡を訪ねる旅 |
| ④ グラウンド・ゴルフ／温泉／食散策の旅 | ⑥ 常磐のカシ林遊歩道／自然散策の旅 |
| ⑦ 巨樹・巨木・名木めぐりの旅 | ⑧ 文化財(16件)探訪の旅 |
| ⑨ 周布川の水生昆虫と触れあう旅 | ⑩ 猿瀧の沢登り体験と田舎体験の旅 |

笠松峠の畳石路の清掃作業

7月27日(日)午前8時から、笠松峠の畳石路の草刈り作業を行った。笠松川砂防堰堤から頂上までの1,200mの区間を5名ずつ2組に分かれて作業を開始した。明け方までの大雨も上がり晴天の下で、畳石の中間地点の立石(記念碑)で合流して11時に終了した。その後、資料館へ帰り、資料館周辺の草刈作業を実施して正午に散会した。女性班は、2つの資料館のガラスケースの清掃作業に従事した。当日の参加した会員は、岩田哲夫、上山信人、奥本武友、奥本國男、小林敏夫、酒井金壽、酒井喜代子、隅田勝幸、隅田正三、隅田哲夫、古田浩吉、寺崎君子、槇田ハツコの皆さんでした。



企画展「金城の古代・中世遺跡と山城」

縄文・弥生・古墳・奈良・平安・鎌倉・南北朝・安土桃山の各時代を通じて金城町内の遺跡から出土した埋蔵文化財を展示解説して、人びとの営みと黒金を巡る攻防の歴史が繰り広げられてきた歴史を紐解く。縄文時代後期から長田郷遺跡周辺では定住化が図られ、弥生中期には、稲作が伝播してきた。古墳時代前期には、千年比丘一号墳では、鉄器を研ぐ砥石が埋納されていた。稲作と同時期に黒金を造る技術や鉄穴流しの技術も伝播したものと考察えさせる遺跡の発見であった。

文献史料によれば「長田別府」、「長田保」、「波佐庄」と国衙・荘園制度があり、大歳神社へ従五位下の河野監物神祇官が派遣され、「墾田永年私財法」に則り、田畑を拡張し黒金を産出して富を貯え、永萬年間には自己防衛のため亀遊山へ波佐一本松城を築城した。築城に当たっては、陰陽道に則り、東北の鬼門除けに大歳神社を移設した、大歳神社から真東に官道を築き細田の地へ役宅を構えた。その後、源平合戦が起こり、佐々木高綱が波佐一本松城主河野氏を打ち破り、八幡宮を営造し仏門へ帰依した。その後、波佐一本松城は、小笠原大学公光が「波佐谷の合戦」で敗退、尼子経久、吉川の所領地を経て江戸時代を迎えた。農民は、馬による砂鉄の運搬で富を得た。



文化財研修旅行～北九州の旅

11月16日(日)に文化財研修旅行に、吉野ヶ里遺跡公園、大宰府天満宮、北九州国立博物館の3か所に11名参加の下に出かけました。早朝5時に出発して、吉野ヶ里へ9時30分に到着。10時からのボランティアガイドさんの案内の下に遺跡公園内を2時間たっぷりと見学しました。大宰府天満宮へ参拝して遅い昼食を済ませ、近隣の北九州国立博物館で開催中の故宮博物館所蔵の特別展などを鑑賞して帰路につき、午後9時に波佐に到着した。全行程700Kmのバス旅行でした。

今回の研修で、展示物の説明方法やレイアウトなど企画展を開催する上でとても参考になった。



文化財防火デーに伴う消防訓練／研修会の実施について

- ① 消防訓練の実施 27年1月24日(土) 午前10時
会場 金城民俗資料館内外において
浜田消防署美又出張所職員、自衛消防隊員(民具を守る会員)
- ② 文化財研修&ガイド研修 27年1月24日(土) 午後1時
会場 ときわ会館研修室

文化財防火デーに伴う消防総合訓練を実施

1月24日（土）／金城資料館

1月24日、午前10時から浜田消防署美又出張所2名の指導の下に、文化財防火デーに伴う消防防火訓練を資料館登録の自衛消防団員12名が参加して、総合訓練（避難誘導訓練・通報訓練・消火訓練）を実施した。

総合訓練後に、会場をときわ会館に移し、ガイド研修会を実施した。



消火訓練の様様



ガイド研修会を実施

金城資料館へ来館されるお客様へ館内の展示説明が自信をもってガイド出来るようパワーポイント映像により研修会を開催した。今回は、歴史資料館を対象に能海寛、島村抱月、たたら製鉄、古代・中世遺跡と山城など常設展示の説明ポイントについての研修に併せて、ガイドの基本について学習した。防火訓練を振り返って意見交換を行なった。



第40回文化講演会／3月15日（日）

日時 平成27年3月15日（日）午前10時～正午
会場 ときわ会館 浜田市金城町波佐
演題 『宮本常一のまなざしー地域に根ざす資料館をめざして』
講師 高木泰伸氏（周防大島文化交流センター学芸員）
主催者 西中国山地民具を守る会
入場料 無料

第40回文化講演会開催

3月15日（日）午前10時から、ときわ会館において周防大島文化交流センター学芸員高木泰伸氏を迎えて「宮本常一のまなざしの継承—地域に根ざした資料館をめざして」と題して講演会を開催した。広島県、山口県の資料館学芸員や民俗学に関心のある方たちが一堂に会して、講演に聞き入った。周防大島で地域交流員と連携して資料館運営の実践活動の映像を通して詳細に紹介された。



座談会「地域に根ざした資料館運営」

3月15日、午後1時から2時間に亘って、地域における資料館の運営について意見交換を行った。参加者は16名（周防大島文化交流センター3名、八幡生涯学習むら、広島民俗学会2名、芸北文化保存伝承館、中国連合会、有・グリーンブリーズ、産興、中国総合研究センター、民具を守る会5名）活発な意見交換を行った。有意義な会であったので、継続して開催したいという提案があった。参加者の自己紹介、パワーポイントによる「実践民俗学」の実践報告を受けて、ディスカッションによる意見交換を行った。



金城民俗資料館へAEDを配備

6月1日付で民俗資料館へAEDが市教委から設置されました。カウンター右側に設置しております。会員の皆さんは、緊急時に対応方、宜しくお願いします。会員への講習会は、笠松峠の畳石路の草刈奉仕の後、資料館で実施いたします。

AED使用した心肺蘇生法 (ハートスタートHS1用)

1 反応の確認をする
肩を軽く叩きながら「わかりますか?」などと2~3回呼びかけます。
事前周囲の状況を確認します。
※不安な方は119番の通信指令員から、心臓マッサージ要領を確認できます。

2 大声で協力を求める
「誰か来て下さい!」
「人が倒れています。」
人が倒れてます>あなた119番通報してください。
>あなたAEDをもってきてください。

3 呼吸の確認をする
胸または腹部の動きを10秒以内で確認します。
普段どおりの呼吸がなければ胸骨圧迫を行います

4 胸骨圧迫30回
気道確保
人口呼吸を2回を繰り返す
圧迫速さ:1分間 少なくとも100回
圧迫の強さ:胸の真ん中 少なくとも5cm
※小児は胸の厚さの約1/3の圧む程度
※感染防止具等なく、手技が不安な方は呼吸吹き込みは不要です。

5 AEDの電源を入れ
胸のハンドルを引くと自動的に電源が入ります。
電源を入れた後は、音声メッセージで案内されます。
未就学児(0~6歳以下)の場合は小児用パッドカートリッジに付替えて使用します

6 電極パッドを傷病者の胸にはる
カードリッジから電極パッドを取り出し、表面に描かれている位置に貼ります。
『輪の通りにパッドを貼ります。』
パッドが貼られると自動的に解析が始まります。

7 解析を始めます。
『身体に触れないでください。解析中です。』
心電図が自動的に解析され、除細動の適応であれば点滅しているオレンジのボタンを押すように指示がきます。

8 除細動を行う ショックボタンを押します。
『ショックが必要です。身体から離れてください。点滅しているオレンジのボタンを押してください。』
自動的エネルギーが充電され、オレンジのボタンが点滅します。このとき、以下の安全確認を必ず行ないます。
● 声を出して離れるよう指示します。
● 手振りでも離れるように指示します
● 身体に誰も触れていないのを確認します。
その後、ショックボタンを押します。

9 直ちに心肺蘇生を再開する
1 ボタンを押すと、救急蘇生法を補助する音声メッセージ(CPRコーチング機能)を聞くことができます。
> 胸骨圧迫を再開します。(呼吸吹き込み省略可)
2分間の心肺蘇生の後にAEDが再度自動解析し、除細動が必要かどうか指示します。
何らかの応答や体動があってもパッドは貼ったままにします。
※患者の状態が変化すると、AEDが反応します。
何らかの応答や目的のある仕草(例えば嫌がるなどの体動)、あるいは救急隊が到着し引継ぎまで続けます。

10 救急隊に情報を伝える
> 救急隊が到着するまで、AEDの指示に従って繰り返します。
> 救急隊が到着したら、傷病者が倒れた時の状況とAEDの使用状況について伝えましょう。
救急隊到着!!

★ AEDの使用時の注意点
必ず守ってください!!
1 『ふれないでください』の案内に従ってください!
解析中、ショックを実行するときに必ず音声案内をします。
2 パッドを直接素肌につけてください!!
1) 汗や水で身体が濡れているとき 【ハンドタオル】
→ タオルなどで拭き取ってからパッドを貼る
2) 胸毛が多いとき 【布製ガムテープ】
→ 体毛を除去してからパッドを貼る
3) パッドを貼る位置に湿布薬等が貼られているとき
→ はがして薬剤を拭き取ってからパッドをはる
4) ベースメーカーなどの機器が埋め込まれているとき
→ 埋め込み位置から少し離れたところに貼る
5) ネックレスなどがあるとき
→ 胸部周辺の金属部をパッド貼付位置からずらす
6) 未就学児/小児用パッド使用の際は、パッドを小児用に交換して使用してください。
→ 交換方法は裏面に記載しております。ご確認ください。

小児用パッドカートリッジ
※目印は青ライン (0~6歳以下)

「地域まるごとミュージアム」効果

この春からスタートした「地域まるごとミュージアム」で波佐地区への入込客が増え、資料館来場者も増加の傾向です。資料館の展示写真も大幅にリニューアルしたので来観者から喜びの声が上がっています。より親しまれる資料館運営を目ざして接遇、接客に笑顔で対応していきましょう。



笠松峠の畳石路の草刈清掃作業の実施について

文化財保護活動として次の日程で、奉仕活動を行いますので、会員の皆様こそってご参加ください。

日時 7月26日(日)午前8時~正午 資料館前集合(草刈り機、ノコなど持参してください。)

男性=草刈作業、女性=資料館のガラス拭き作業、に分かれて作業します。宜しくお願いします。

文化財保護活動／笠松峠の畳石路

西中国山地民具を守る会では、毎年恒例の文化財保護奉仕活動を7月26日(日)、午前8時から、市指定史跡『笠松峠の畳石路』1.2kmの区間が安全にウォーク出来るように倒木の撤去や草刈作業を実施した。また、落ち葉で覆われている畳石も数か所来訪者が写真撮影できるよう清掃した。コース内は、ほとんどが木陰で夏場のウォークには最適のコースです。

6月1日付、山陰中央新報「鉄のまほろば」⑱で笠松峠の石畳路と歴史民俗資料館のたたら製鉄資料が新聞掲載され、今後、石畳路の見学者が増加することと推測されます。会員の皆様は、引き続き史跡の保全に、ご支援を賜りますようお願いいたします。※写真下の右側は、中間地点の立石(記念碑)周辺



民俗資料館にAED設置／使用法訓練

金城町波佐地区に、4台目のAEDが設置されました。これまでに波佐診療所、波佐公民館、波佐小学校に設置されていましたが、浜田市教育委員会より、6月1日付で金城民俗資料館のカウンターに配備しています。民具を守る会では、金城資料館2館の清掃作業の後、AEDの訓練用のモードにより参加者11名全員が使用方法などを体験、確認しました。



企画展『能海寛の地域教育から120年』

～明治28年／波佐倶楽部・高島教育～

会期 9月1日(火)～28年3月31日(木)

開館日 土・日曜日 Am9:00～Pm5:00

会場 浜田市金城歴史民俗資料館(金城町波佐)

※ 団体に展示ガイドを希望する場合や、平日に来館されたい場合はご連絡ください。(☎090-4697-2818)

秋の文化財研修を周防大島町で開催

今回の文化財研修旅行は11月21日(土)、山口県周防大島町の宮本常一記念館を中心に開催しました。民俗学者として大先達の宮本常一氏は、渋沢敬三氏と共にアチックミュージアムの草分けであった。出身地の周防大島で民具収集の実践・指導の下に民具が収集された。周防大島町の1万点にのぼるこれらの民具は宮本常一記念館、民具收藏庫、久賀歴史民俗資料館に分散展示されている。

この日は、学芸員の高木泰伸氏にご案内いただき宮本常一資料(膨大な写真データ、2万点にのぼる蔵書、ちに密に記された調査ノート)を閲覧させていただいた。四方海に囲まれた周防大島町は、出稼ぎの島で、漁労を中心とした諸職(大工・石工)に秀でた職人の郷とであった。収集された民具も漁労用具が体系的に展示され、食生活の追体験もできるよう工夫展示されていた。

民具收藏庫では、民具の比較研究(改良・進化する過程)が出来るように同一名称の民具が沢山収集されており、宮本常一先生の教えを忠実に実践されている様子が理解でき圧巻であった。この收藏庫は平素、休館となっているそうだが見学予約制度でもして活用しないともったいない宝物である。

久賀歴史民俗資料館は、醤油蔵の樽を往時のままの姿で展示してあり圧巻であった。展示資料も多岐にわたりよく収集保存されていると感じた。今回は、資料館見学に併せガイド研修にも役だたせていただきました。



実践民俗学第11弾「綿花の栽培」記録作成

5月下旬より播種して、この程綿花栽培実験を終了しました。まずまずの出来栄です。今後は、写真資料と綿花を展示して活用を図っていきます。紡織用具の展示コーナーが紙布製品、絹製品、麻布製品に続き、綿製品の充実でより一層の深みを増すと思われます。



資料館の燻蒸処理日について

12月21日(月)に、資料館の燻蒸処理を行います。会長が立会します。

資料館トイレの屋根を設置

資料館のトイレの屋根が雨漏りをすることで市教委において写真のとおり片屋根式タン屋根を設置していただきました。会員の皆様には、引き続き管理日直の時は、トイレの清掃方宜しく願います。

